

鎌倉武士の識字能力(literacy)は低い

平重衡の1180年南都焼打ち(東大寺・興福寺)

院政期文化 (貴族層が民衆文化を受容、独自の地方文化が発展)			
建築	<p>〔阿弥陀堂〕(阿弥陀堂建築の地方普及)</p> <p>〔中尊寺金色堂〕(陸奥国平泉に藤原清衡が建立)</p> <p>〔富貴寺〕(豊後国(大分県))</p> <p>〔白水阿弥陀堂〕(陸奥国(福島県))</p> <p>〔三仏寺投入堂〕(伯耆国(鳥取県))</p>	<p>鎌倉文化 (公式二元文化、禪宗文化の影響)</p> <p>東大寺南大門=大仏様(天竺様)</p> <p>★重源(俊乗坊)の指導・陳和卿(宋の工人)の協力</p> <p>円覚寺舍利殿=禪宗様(唐様)</p> <p>蓮華王院本堂=和様(日本風建築)</p> <p>觀心寺金堂=折衷様(新和様)</p>	<p>南北朝文化</p> <p>〔慶派(奈良仏師)の影響(鎌倉文化)〕</p> <p>東大寺南大門金剛力士像(運慶・快慶ら)</p> <p>東大寺僧形八幡神像(快慶)</p> <p>興福寺無著像・世親像(運慶ら)</p> <p>興福寺天灯鬼像・竜灯鬼像(康弁ら)</p> <p>六波羅蜜寺空也上人像(康弁)</p>
絵画	<p>〔裝飾絵〕(経典に特別な装飾をほどこしたもの)</p> <p>『扇面古写絵』(大和絵の上に経文を墨書き)</p> <p>『平家納絵』(平盛が巌島神社に奉納)</p> <p>★巌島神社参詣のために音戸瀬戸(安芸国)を開削</p> <p>〔絵巻物〕(絵画と文書を交互に記したもの)</p> <p>『源氏物語絵巻』(源氏物語が題材)</p> <p>★藤原隆能が引目鉤鼻・吹抜屋台の手法で描く</p> <p>『伴大納言絵巻』(応天門の変(866)が題材)</p> <p>『鳥獣戯画』(動物を擬人化して世相を風刺)</p> <p>『信貴山縁起絵巻』(僧利益に関する奇跡談)</p>	<p>〔似絵〕(写実的な大和絵の肖像画)</p> <p>藤原隆信(父)『源頼朝朝像・平重盛像』</p> <p>藤原信実(子)『後鳥羽上皇像』</p> <p>〔頂相〕(禪宗で師から与えられる師の肖像画)</p> <p>〔絵巻物〕(絵画と文書を交互に記したもの)</p> <p>『北野天神縁起絵巻』(菅原道真的生涯を描く)</p> <p>『春日権現観記』(建築現場の様子を描く)</p> <p>『一遍上人絵伝』(備前国福岡市の様子)</p> <p>『蒙古襲来絵巻』(肥後の御家人竹崎季長)</p> <p>『男衾三郎絵巻』(武蔵国の武士の生活)</p>	<p>〔水墨画〕(禪の精神を墨の濃淡で描く)</p> <p>黙庵『布袋図』</p> <p>可翁『寒山図』</p>
文	<p>〔軍記物語〕</p> <p>『將門記』(平将門の乱が題材)</p> <p>『陸奥話記』(前九年の役が題材)</p> <p>〔歴史物語〕</p> <p>『栄花(華)物語』(道長の栄華を賛美し記述)</p> <p>★赤染衛門(女流歌人)の作といわれる</p> <p>『大鏡』(道長の栄華を批判的に記述)</p>	<p>〔軍記物語〕</p> <p>『平家物語』(琵琶法師の平曲で庶民に流行)</p> <p>『源平盛衰記』(平家物語を増補したもの)</p> <p>〔歴史書・歴史物語〕</p> <p>『吾妻鏡』(鎌倉幕府の記録を編年体で記述)</p> <p>『愚管抄』(慈円(天台座主)の道理による歴史書)</p> <p>『今鏡』→『水鏡』</p>	<p>〔軍記物語〕</p> <p>『太平記』(南北朝の動乱が題材)</p> <p>★南朝に同情的な記述が多い</p> <p>〔歴史書・歴史物語〕</p> <p>『神皇正統記』(南朝の正統性) 北畠親房</p> <p>『梅松論』(北朝の正統性)</p> <p>『増鏡』(公家の立場から記述した歴史物語)</p>
学	<p>〔説話文学〕</p> <p>『今昔物語集』(源隆国が著したとされる?)</p> <p>本朝・天竺・震旦の3国から成る仏教等説話集</p>	<p>〔説話文学〕(庶民用に平易な文章)</p> <p>『古今著聞集』(橘成季が著した古今の説話集)</p> <p>『沙石集』(無住が著した庶民的な仏教説話集)</p>	<p>〔日記・隨筆(鎌倉文化)〕</p> <p>『玉葉』(九条兼実(摂政・関白)の日記)</p> <p>『十六日記』(阿仏尼の京都～鎌倉の日記)</p> <p>『方丈記』(鴨長明の隨筆) = 鎌倉前期</p> <p>『徒然草』(吉田兼好の隨筆) = 鎌倉後期</p>
詩歌	<p>(八代集の編纂)</p> <p>武家政権の隆盛=公家政権が後退</p> <p>(1) 和歌を重視して公家の教養を強調</p> <p>(2) 昔を懐かしうようになる(懐古主義)</p> <p>→ 有職故実(朝廷の儀式などを研究)</p>	<p>〔勅撰和歌集〕</p> <p>→『新古今和歌集』(八代集の最後)</p> <p>後鳥羽上皇の命で藤原定家・家隆らが編纂</p> <p>〔私撰和歌集〕</p> <p>『金塊和歌集』(源実朝)</p> <p>『山家集』(西行) もと北面の武士</p>	<p>〔連歌〕(上の句と下の句を交互に読み合す)</p> <p>二条良基</p> <p>『菟玖波集』(最初の連歌集→準勅撰となる)</p> <p>『応安新式』(連歌の規則書)</p>
学問	<p>〔有職書〕(朝廷の儀式・年中行事などを記す) → 〔有職故実〕(朝廷の儀式や年中行事を研究)</p> <p>源 高明『西宮記』(国風文化)</p> <p>藤原公任『北山抄』(国風文化)</p> <p>大江匡房『江家次第』(院政期文化)</p>	<p>〔順徳天皇・禁秘抄〕</p> <p>〔古典研究〕</p> <p>ト部兼方『釈日本統』(日本書紀の注釈書)</p>	<p>〔有職故実〕(朝廷の儀式や年中行事を研究)</p> <p>後醍醐天皇『建武年中行事』</p> <p>北畠 親房『職原抄』(1340)</p>
芸能	<p>散楽(奈良時代に伝わる)</p> <p>→ 〔猿楽〕(滑稽を主とした雑芸) → 芸として専門的に演じる者が登場</p> <p>→ 〔田楽〕(田植祭りの際の歌舞) → 一演劇(能)としての仕組みを整える</p>	<p>〔猿楽能〕(大和猿楽四座=観世座(もと結崎座)・金春座・宝生座・金剛座)</p> <p>〔田楽能〕</p>	<p>〔田楽の要素を取り入れる〕</p>
	<p>〔今様〕(貴族も愛好した現代歌謡)</p> <p>〔催馬楽〕(貴族も愛好した古代歌謡)</p> <p>後白河法皇『梁塵秘抄』(歌謡を集成)</p>	<p>〔茶道(茶の湯)〕</p> <p>抹茶の伝来(宋が宋から伝える)</p> <p>ex. 『喫茶養生記』(源実朝に献上)</p>	<p>〔茶道(茶の湯)〕</p> <p>茶寄合(多人数で開かれた娯楽的な茶会)</p> <p>闘茶(茶の種類や産地を飲みあてる競技)</p>

足利義満時代 北山文化		足利義政時代 東山文化	安土・桃山時代 桃山文化
(公家文化を基礎に武家文化が発展、禪宗文化の影響)		(伝統的な日本文化の形成、中央文化の地方普及)	
<b>建築</b> 鹿苑寺金閣 (足利義満が京都北山山荘に建立)		慈照寺銀閣 (足利義政が京都東山山荘に建立) 慈照寺東求堂同仁斎 (書院造の義政の書斎) 慈照寺庭園 (山水河原者(作庭師)の善阿弥の作) 枯山水 (岩石で滝、砂利で水を表現した庭園) 龍安寺石庭・大徳寺大仙院庭園	
<b>絵画</b> 明兆 → 如拙 → 周文 『瓢鮎図』		水墨画 (禪の精神を墨の濃淡で描く) 『雪舟』 (日本の水墨山水画を大成) 『四季山水図巻』・『山水長巻』 『秋冬山水図』・『天橋立図』	
<big>狩野派系図</big> 正信 → 元信 → 永徳 → 探幽 (狩野派始祖) 土佐派=土佐光信 (大和絵の主流) 狩野派 (水墨画に大和絵の手法を取り入れる) 狩野元信 (父)『周茂叔愛蓮図』 狩野元信 (子)『大仙院花鳥図』		大和絵 (日本風絵画の総称) 土佐派=土佐光信 (大和絵の主流) 狩野派 (水墨画に大和絵の手法を取り入れる) 狩野元信 (父)『周茂叔愛蓮図』 狩野元信 (子)『大仙院花鳥図』	
<b>文</b> 『軍記物語』 『難太平記』 (今川貞世(了俊)) ★北朝の立場から『太平記』中の誤りを訂正 『五山文学』 (五山の僧による漢文学・漢詩文) → 五山版 (五山の僧によって出版された書籍) 義堂周信 (南禪寺の五山文学僧) 絶海中津 (相国寺の五山文学僧)		御伽草子 (室町時代の庶民的な短編物語) ex.『浦島太郎』・『一寸法師』 『物くさ太郎』・『酒呑童子』 庶民の富裕層の識字率が向上 <b>教育</b> 足利学校 (上杉憲実が再興した学校施設) ★ザビエルから「坂東の大学」と称される 儒学普及 桂庵玄樹 (薩南学派の祖) (地方伝播) 南村梅軒 (海南学派の祖) 庶民教育 『庭訓往来』 (庶民教科書) 『節用集』 (国語辞典)	
<b>詩歌</b> 太平記は庶民の手習い本にもなり庶民富裕層の識字率向上		→ [連歌] (上の句と下の句を交互に読み合わす) 宗祇 (正風連歌を確立) = 連歌を大成 『新撰菟玖波集』 (準勅撰の連歌集) 『水無瀬三吟百韻』 (宗祇・肖柏・宗長) [俳諧連歌] (連歌から生じた五・七・五の短詩) 山崎宗鑑『大筑波集』 (俳諧連歌集)	
<b>学問</b> 語曲 (能の脚本→觀阿弥・世阿弥の作が多い) 狂言 (風刺性の強い喜劇でしばしば上演停止)		[有職故実] (朝廷の儀式や年中行事を研究) 一条兼良『公事根源』 (有職故実書) [古今伝授] (古今和歌集に関する秘事を口伝) 東常縁 → 宗祇 → 三条西実隆	
<b>芸能</b> → 足利義満の保護 猿楽能 (觀阿弥(父)・世阿弥(子)が大成) 『風姿花伝(花伝書)』 (世阿弥の能楽書) 『申楽談儀』 (世阿弥の秘伝を二男元能が筆録)		[小歌] (庶民に広く流行した民間歌謡) 『閑吟集』 (1518年に成立した小歌集) [幸若舞] (桃井直詮が創始→織田信長も愛好)	
一休宗純 (大徳寺の僧) から 禪の精神を学んで取り入れる		→ [茶道(茶の湯)] 村田珠光 → 武野紹鷗 (侘び茶を創始) (侘び茶を簡素化)	
		→ [隆達節] (高三隆達が節付けした小歌) [人形浄瑠璃] (淨瑠璃節+人形操り+三味線) [阿国歌舞伎] (出雲阿国が創始した踊り)	
		聚楽第で長次郎に焼かせる 千利休 (宗易) (堺の豪商出身→樂燒を指導) (侘び茶を大成) ex.妙喜庵庵 (千利休の茶室)	

## [F] 院政期文化②



〔源氏物語絵巻〕



〔鳥獣戯画〕



〔信貴山縁起絵巻〕

## [G] 鎌倉文化



〔東大寺南大門〕



〔円覚寺舍利殿〕



〔東大寺南大門金剛力士像〕



〔興福寺天灯鬼・竜灯鬼〕



〔六波羅蜜寺空也上人像〕



〔蓮華王院本堂〕



〔觀心寺金堂〕



〔北野天神縁起絵巻〕



〔春日權現驗記〕



〔踊念仏〕



〔一遍上人絵伝〕



〔蒙古襲来絵詞〕



〔男貳三郎絵巻〕



〔〔伝〕源頼朝像〕

## [H] 室町文化



〔鹿苑寺金閣〕



〔慈照寺銀閣〕



〔慈照寺東求堂同仁斎〕



〔龍安寺石庭〕



〔瓢鮎圖〕



〔四季山水図巻(山水長巻)〕



〔秋冬山水図〕



〔大仙院花鳥図〕



〔田樂〕



〔能の興行風景〕

## [I] 桃山文化



〔姫路城〕



〔唐獅子図屏風〕



〔智積院換絵〕



〔南蛮屏風〕



〔阿国歌舞伎〕



〔天草版平家物語〕